

下北山村立小・中学校の耐震診断結果を公表します

学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場として、豊かな人間性を育むための教育環境として重要な意義を持つことから、その安全性の確保は極めて重要です。また、地域の方々にとっては、生涯学習やスポーツ・レクリエーションなどの活動の場となるなど、地域コミュニティの拠点として、さらには地震等の災害発生時の応急避難場所となるなど、防災拠点としての重要な役割も担っています。

このような状況を踏まえ、本村では平成20年度に耐震診断を実施し、耐震補強が必要と認められた校舎や体育館は、補強計画に基き補強工事を今後実施いたします。

つきましては、村民の皆様と情報を共有し、学校施設等の耐震化を進めていくために、耐震診断結果を公表いたします。

今後とも、学校施設等の耐震化について、一層のご理解とご協力をお願い致します。

1 下北山村立学校施設等の耐震化状況について

学校別・建物種別		全棟数	S57年以降建築の棟数 (新耐震)	S56年以前建築の棟数 (旧耐震)	IS値 (2次診断結果)	耐震化 実施予定年度
小学校	校舎	1	0	1	0.62	全ての結果が出た後、検討。
	体育館	1	0	1	0.05	全ての結果が出た後、検討。
中学校	校舎	1	0	1	0.37	全ての結果が出た後、検討。
	体育館	1	0	1	0.29	全ての結果が出た後、検討。

2 Is値(構造耐震指標)： 第1次診断または第2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される指標で、その最小値を標記しています。

【Is値の目安】

Is値0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い
Is値0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
Is値0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

* 文部科学省は、Is値0.7以上を「耐震性がある建物」として取り扱っています。

* 大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。